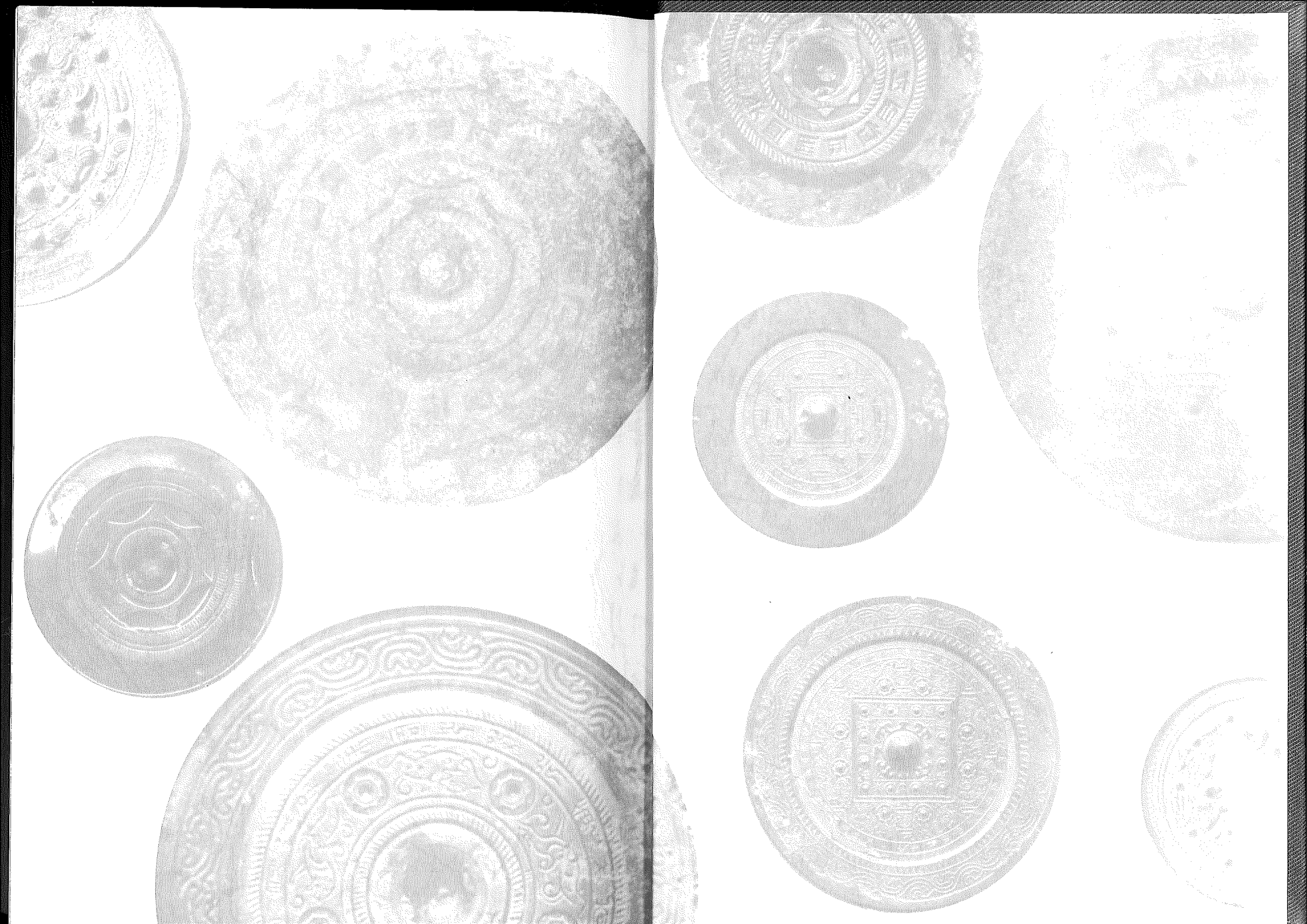
佐賀市史

第一巻

13市誌記
1
情報公開



佐賀市史

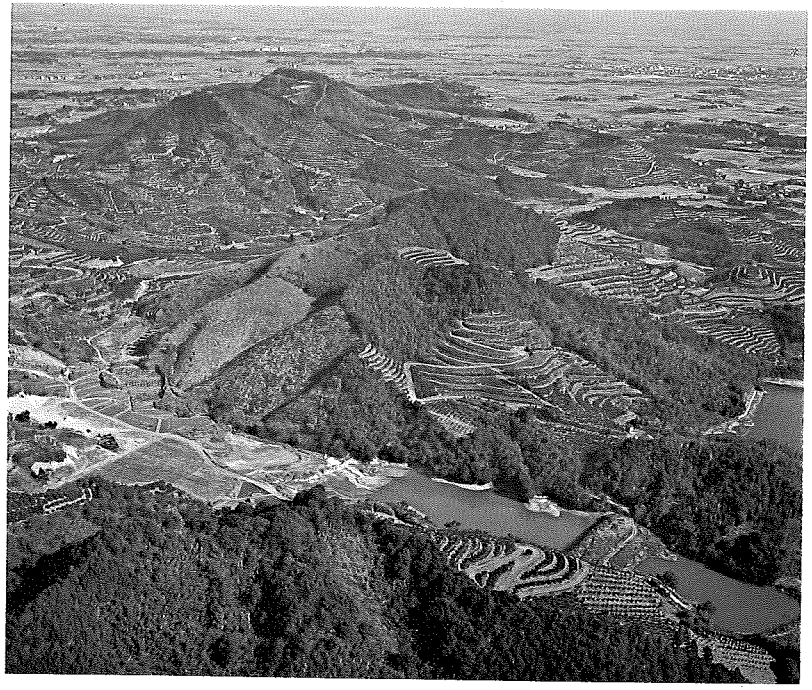
第一巻

上空から見た佐賀市街

稲こずみのある佐賀平野　（佐賀市南部）

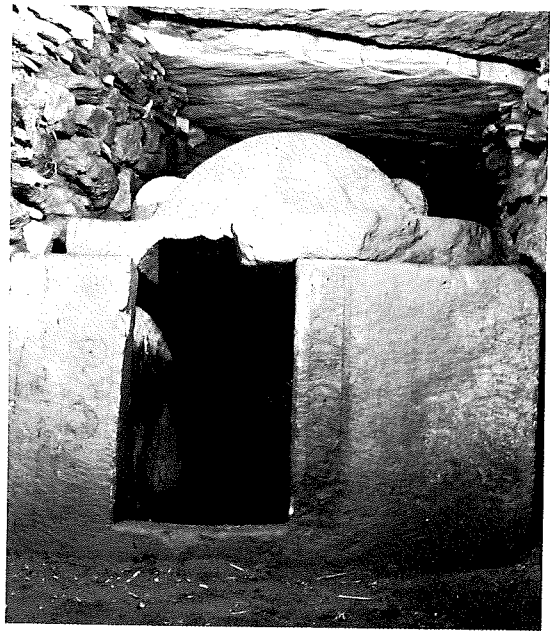
佐賀平野のクリーク網　（佐賀市北部）

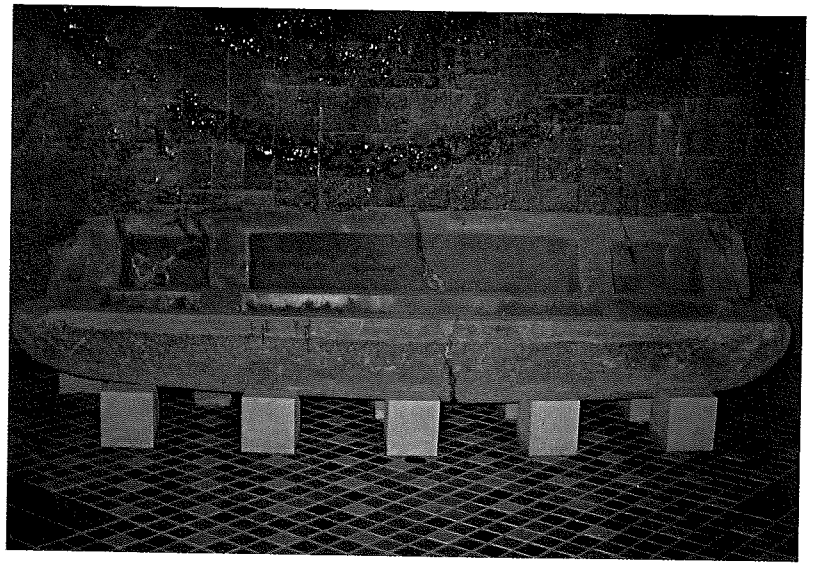
史跡帯隈山神籠石の列石



神籠石のある帯隈山一帯

史跡西隈古墳の家形石棺

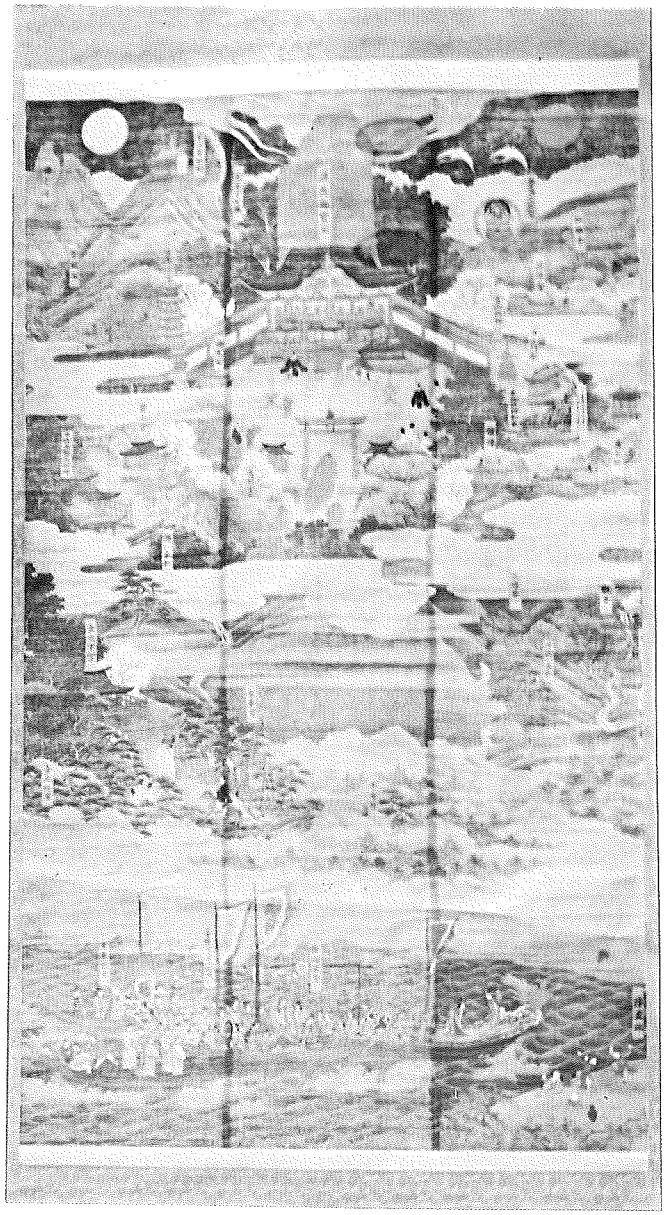




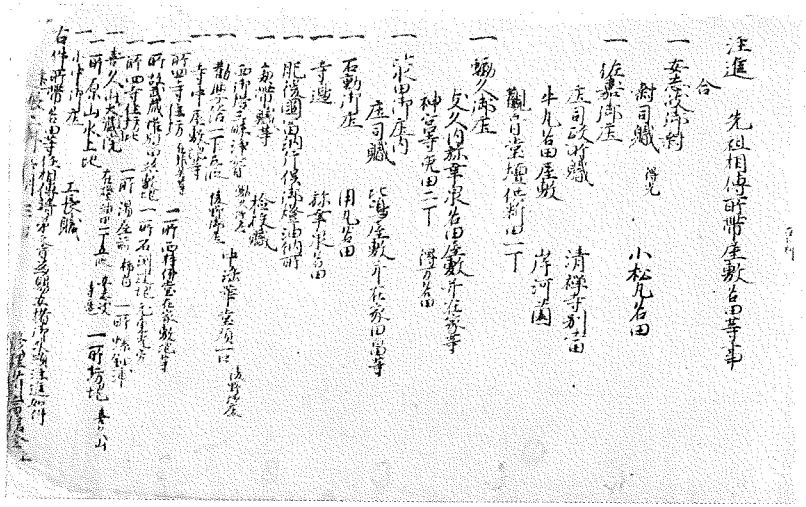
熊本山舟形石棺　（県重要文化財）

普賢延命菩薩騎象像　（国重要文化財）

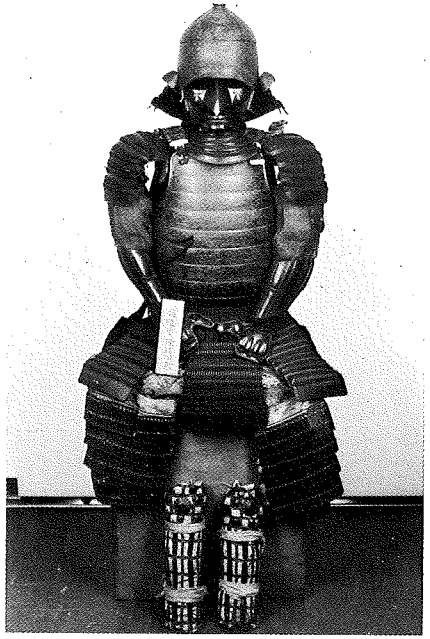
与賀神社楼門　（国重要文化財）



金立神社縁起図　（市重要文化財）



修理少別当信全所領所職注文　（『太宰府神社文書』）



戦国時代に着用された甲冑

発刊のことば

佐賀市長　宮田虎雄

佐賀市は、明治二十二年四月一日の市制施行以来八十九年目を迎えました。この間、佐賀県の中枢都市として発展を続け、市制施行当時二万五千余りであった人口も、数次にわたる町村合併等によって、現在では十五万有余人となり「清らかな水と緑の木々に象徴される都市像」を掲げて、今まさに新たな意欲と輝かしい未来への希望に燃えながら一大飛躍を期しています。

本市では、市町村合併二十周年並びに市庁舎建設記念事業の一環として、「佐賀市史」の編さんを計画し、その完成を急いでおりましたところ、この度いよいよ発刊する運びとなりました。

郷土は、私たち市民にとって掛け替えのないものであり、ここに深い愛情を傾けることによって明るい展望が開けるものと確信いたします。しかし、急激に進展し、かつ複雑化する社会の中で生活していくには、ただ郷土を偏愛するだけで事足れりとするわけにはまいりません。本市の自然的環境、歴史的条件を広い視野から究明し、その個性と特異性をは握することが必要だと思います。その意味において豊富な資料に基づき、実証的な方法によって編さんされた本書を通して、限りない時代の流れの中における我が郷土の歴史を顧み、偉大な業績を残された先人の足跡をたどり、先輩の努力と功績をたたえ、郷土についての正しい認識を深めていただきたいと考える次第であります。

最後に、この市史編さん事業に心魂を傾けられた執筆者の皆さま並びに種々御協力をいただいた市史編さん委員の方々に対し深じんの謝意を表します。

どうか、この市史が広く愛読され、我が「佐賀市」に対する認識が一層高まり、明るい郷土の建設に役立つことを心から願ってやみません。

昭和五十二年七月

凡例

一 本書は、佐賀市史全五巻のうちの第一巻である。

一 この巻の内容は、地理的環境・原始・古代・中世の四編に分け、佐賀市の地理的環境及び原始社会の発生から中世末期までについて広く叙述した。しかし、叙述の都合により近世初期のことについてもいくらか言及した。

一 項目の表示は、章・節・項の文字は使用せず、一・㈠・3として区分し、以下区分を必要とする場合は小見出しにした。

一 文章はできるだけ平易なものとするため、現代かなづかいにより、漢字も当用漢字を用いた。しかし、固有名詞、歴史的名辞（歴史用語）など特殊なものは原文のままを掲げてふりがなをつけた。

一 文中の人名は、文中の引用、参照した編著論文などの編著執筆者名を含めて敬称を省略した。

一 一般に数の表記は、日本数字を並べて表わしたが、特殊なものには十・百・千等の単位語を入れた。

一 年紀の表現は、日本年号を用い、その下に（ ）をもって西暦年を付記した。

一 文中に引用する資料のうち、文書・記録類・編さん物などは『 』で示し、内容に及ぶ場合は、「 」または改行して一段落して書いた。

一　注書は、文書または語句の右下に番号を〇に包んで表わし、節に相当する区分ごとに資料・参考文献を掲げた。
一　写真及び図表の番号は省略した。
一　年表は、この巻に該当する分野を巻末に収録した。

佐賀市史（第一巻・地理的環境・原始・古代・中世編）目次

題字　佐賀市長　宮田　虎雄

発刊のことば

地理的環境

一　佐賀市の位置とその意義……一
二　佐賀平野の成り立ち……九
(一)　脊振山地と佐賀平野……九
はじめに……九
1　脊振山地……一〇
2　佐賀平野……一一
3　佐賀平野進展のあらまし……一三
(二)　有明海面の変動と平野の進展……一八
1　五メートル等高線の意義……一八

2　海抜四メートル線の意義……二〇
㈢　干拓平野の展開……二三
1　開墾と干拓……二三
2　開墾と干拓の漸移線……二四
3　元寇と干拓……二六
4　戦国末期の線……三〇
5　松土居の線……三一
6　潟土居と干拓堤防……三四
7　松土居の築造年代……三八
8　幕末明治初頭の線……四三
9　現在の潮受堤防線……四六
三　佐賀平野の水誌……四八
㈠　堀と生活……四八
㈡　江湖と江湖堀……五〇
㈢　人工的成因による堀とその歴史的背景……五四
。条里遺構　。環濠　。土取堀　。干拓地域の遊水池
。中島と土居田　。堀の分布と密度　。まとめ

㈣　佐賀市域の河川……六三
1　河川の営力と河川改修……六三
2　嘉瀬川……六七
3　市ノ江と巨勢江湖……七三
4　佐賀江と新川……七五
5　八田江……七八
6　多布施川と小津江、本庄江湖……八一
四　気候と災害……八九
㈠　気候と生活……八九
1　気候の概要……八九
2　四季の変化……九二
3　天気と諺……九四
㈡　天災地変……九九
1　災害のあらまし……九九
2　主な気象災害……一〇二
。正徳年間の風水害　。享保、天明の大飢饉　。文政十一年の風水害
。昭和十四年の空梅雨の被害　。昭和二十四年八月のジュディス台風の被害

。昭和二十八年梅雨期の水害　。昭和四十七年梅雨期の水害
3　風水害と家の造り……一二六
4　地盤沈下と洪水の諸因……一二八
5　有明海の性格と沿岸平野の洪水……一三三

原　始

概　説……一三五
一　原始社会の発生……一三九
(一)　先土器時代の社会と文化……一三九
(二)　縄文時代の社会と文化……一四一
二　原始的小国家の発生……一四二
(一)　農耕文化の普及……一四二
(二)　金属器の伝来……一四三
(三)　小国家の分立……一四四
1　松浦国……一四六
2　基肄国……一四八

古　代

概　説……一七九
3　三根国……一四九
4　佐嘉国……一五〇
5　杵島国……一五一
(四)　弥生時代の社会と文化……一五四
1　集　落……一五四
。巨勢川流域　。佐賀東部の平地地域　。巨勢川支流域
。金立川流域　。黒川上流域　。川上川流域　。真手川流域
。神水川流域　。山王川上流域　。山王川下流域
2　生　業……一六〇
3　生　活……一六三
4　道具・容器……一六七
5　卜　占……一七〇
6　墓　制……一七一

一　古代国家の成立……一八三
(一)　大和朝廷の国土統一……一八三
1　大和朝廷の成立……一八三
2　大和政権の伸張……一八六
(二)　大陸との通交……一九〇
1　朝鮮半島への進出……一九〇
2　宋との通交……一九二
(三)　佐嘉県主……一九三
1　県主と国造……一九三
2　佐嘉県主……一九五
(四)　古墳時代の文化……一九八
1　古墳の発生……一九八
2　古墳時代……二〇〇
3　古墳文化の伝播……二〇一
4　佐賀地方の古墳文化……二〇三
。五世紀前半の古墳文化　。五世紀後半の古墳文化
。六世紀前半の古墳文化　。六世紀後半～七世紀前半の古墳文化

。終末期の古墳文化
5　生活と生産……二三八
。生活の舞台　。衣食住　。手工業的生産　。交通
。喪葬儀礼と祭祀
二　律令体制の確立……二四五
(一)　大和政権の動揺……二四五
1　内政外交の動揺……二四五
2　筑紫磐井の反乱……二四六
3　帯隈山神籠石……二四八
4　任那日本府の滅亡……二五一
(二)　大化改新……二五四
1　聖徳太子の摂政……二五四
2　大化改新……二五五
3　大宝律令の制定……二五六
(三)　肥前国佐嘉郡……二五七
1　肥前国……二五七
。火国　。肥前国　。国制　。大宰府と肥前国府

2　佐賀郡……二七一
。郡と里（郷）　。佐賀郡　。郡家　。郡司　。郷と里
(四)　産業・交通・軍備……二八三
1　条里制……二八三
2　産業と農民の生活……二八九
。租　。調・庸・中男作物　。農民の生活
3　交通……二九三
4　軍備……二九五
。軍団　。烽と城
(五)　奈良時代の文化……二九八
1　肥前国風土記と万葉集……二九八
2　風土記に現れた神々……三〇〇
。荒神　。自然神
3　仏教文化……三〇四
。奈良朝寺院　。肥前国分寺　。大願寺廃寺跡
三　律令体制の崩壊……三一一
(一)　律令体制の動揺……三一一

1　地方政治の変化……三一三
2　遣唐使船と肥前国……三一三
3　農民の困窮……三一四
4　社会不安……三一六
(二)　佐賀地方の荘園……三一九
1　神田・寺田・位田・職田・功田・賜田……三一九
2　荘園……三二〇
3　肥前国の荘園……三二一
4　佐賀地方の荘園……三二三
。佐嘉荘・蛎久荘　。牛島荘　。川副荘
。巨勢荘　。鹿瀬荘
(三)　武士の発生……三二五
(四)　平安時代の文化……三三〇
1　律令制下の神社……三三〇
。式内社　。国史現在社
2　仏教文化……三三六
。肥前国分寺　。神宮寺　。仏教美術

中　世

概　説……三四一
中　世 I……三四三
一　武家政権の成立……三四五
(一)　源平抗争期と佐賀地方……三四五
(二)　鎌倉幕府の開創と佐賀地方……三五四
(三)　佐賀地方の地頭・御家人……三六四
(四)　龍造寺氏……三七七
二　文永・弘安の役……三八一
(一)　文永の役……三八一
(二)　弘安の役……三八五
(三)　両度の役と佐賀……三九一
(四)　論功行賞……三九五
三　耕地の開拓……四〇六
(一)　荒蕪地の開墾……四〇六
(二)　有明海沿岸地域の干拓……四〇八

(三)　河川流域の耕地化……四一四
四　荘園と公領……四一七
(一)　佐賀地方の荘園・社寺領・公領……四一七
(二)　諸荘園……四二七
1　佐嘉荘……四二七
・佐嘉下荘　・佐嘉上荘
2　蛎久荘……四三八
3　牛島荘……四三九
4　巨勢荘……四四〇
5　三重屋荘……四四二
・三重屋新荘
6　河副荘……四四四
7　与賀荘　与賀本荘……四四六
8　与賀新荘……四四八
9　鹿瀬荘……四五〇
10　安富荘……四五一
11　成道寺荘　島崎荘……四五四

中　世 Ⅱ……四五九
一　建武中興……四六一
㈠　鎌倉幕府の滅亡……四六一
㈡　建武の新政……四六六
㈢　中興政府の崩壊……四七二
二　南北抗争と佐賀地方……四八一
㈠　探題一色範氏と龍造寺氏……四八一
㈡　宮方・探題方・佐殿方の争覇……四八六
㈢　征西将軍宮の全盛……四九四
㈣　探題今川貞世の入部……五〇四
三　室町幕府の盛衰と佐賀地方……五一一
㈠　室町幕府盛世期……五一一
1　探題渋川氏……五一一
2　大内・少弐氏の抗争……五一三
3　蓮池小田氏の出自……五一六
4　嘉吉の乱と少弐教頼……五一八
㈡　室町幕府衰世期……五二一

1　千葉氏と佐賀……五二一
2　土民の一揆……五二六
3　千葉氏の抗争……五二八
4　少弐政資と佐賀……五三〇
四　戦国時代と佐賀地方……五三五
㈠　龍造寺氏の興起……五三五
1　龍造寺氏の興起と水ケ江館……五三五
2　龍造寺氏と少弐氏……五四三
3　大内軍の来襲……五四六
4　龍造寺家兼と少弐氏の抗争……五四九
㈡　龍造寺隆信の勃興……五五九
1　隆信、水ケ江・村中（本宗）両家を嗣ぐ……五五九
2　神代氏との抗争及び肥前各地への転戦……五七三
3　大友氏の来襲……五八七
㈢　龍造寺氏の全盛……六〇三
1　東肥前の征服……六〇三
2　西肥前の征服……六〇五

3　筑豊諸国の経略……六一四
(四)　隆信の晩年……六二四
1　政家の肥後・筑後経営……六二四
2　島原の戦……六三〇
3　隆信陣没後の龍造寺氏……六四五
五　鍋島氏の抬頭とその佐賀支配……六五二
(一)　鍋島氏の出自……六五二
1　源氏系図……六五二
2　藤原氏系図……六五七
3　源・藤二系……六六〇
4　龍造寺氏継承……六六三
(二)　直茂による領国支配……六六六
(三)　鍋島氏、龍造寺氏に代る……六七七
六　佐賀とキリシタン……六九三
(一)　キリスト教の伝来と佐賀……六九三
(二)　龍造寺隆信とキリスト教……六九五
(三)　佐賀侯とキリスト教……六九九

(四)　イエズス会と佐賀……七〇三
(五)　ドミニコ会の佐賀布教……七〇八
(六)　幕府のキリシタン禁令と宣教師の佐賀退去……七一二
年　表……七一五
編集後記